



学校だより

11月号

令和 4年10月31日

横浜市立洋光台第三小学校

校長 金澤 智美

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai3/>

すてき おく もの 素敵な贈り物

ふくこうちよう とおや たかし
副校長 遠矢 孝

たいよう ひかり よわ ひ く はや ふゆ どうらい
太陽の光が弱くなり、日が暮れるのも早まるよいよ冬の到来です。

2022年の立冬は、11月7日(月)です。「立冬」という言葉は、「立」には新しい季節になるという意味があり、冬の始まりを表しています。紀元前に生まれた、二十四節気という古いこよみから来ています。

二十四節気は、1年を4つの季節に分け、さらにそれぞれの季節を6つに分割しています。二十四節気は太陽の動きをよく計算した、とても精度の高いこよみです(2016年にはユネスコの無形文化遺産に登録されたほどです)。

立春、立夏、立秋、立冬は、春夏秋冬の最初となります。この4つの日を

「四立」と呼びます。その四立の前日が「節分」で、季節を分けるという意味です。節分って、本来は1年に4回あるんですね。

二十四節気における冬は、「立冬・小雪・大雪・冬至・小寒・大寒」です。季節の移り変わりを感ぜながら楽しんでみてはいかがでしょうか。



先日、6年生が日光修学旅行に行っていました。行く前の日と帰ってきた日にあったことを紹介します。ある学年の児童は、「いってらっしゃい」の気持ちを込めて、またある学年の児童は「おかえりなさい」の気持ちを込めて、文字を大きく書いたポスターや手紙などを渡して

ました。とても心温まる光景でした。なぜ、6年生がそのような素敵なプレゼントを送ってもらえたかということ、6年生もこれまでに下級生の児童たちにお世話をしたり、同様な贈り物をしたりしていたからだとすることは容易に想像できました。

「社会の基礎となる部分」、すなわち「人と関わりたい」と思う気持ちは、自らの体験によってのみ、獲得されるものです。平成13~15年度の文部科学省の研究結果の報告書の中で効果的な解決策として提言されたのが、「異年齢の交流活動の推進」によって「自己有用感」を育むことでした。そのことは、現行の学習指導要領にも盛り込まれています。

本校ではケヤパ活動(たてわり活動)での様々な活動を通して、児童一人ひとりが人のために何かをすることで、相手に喜ばれたり感謝されたりしたという実感が生まれ、「自己有用感」が育っているのです。上級生はリーダーとして下級生をいたわり、下級生は上級生を親しみや憧れ、尊敬のまなざしで見ると

いうつながりが伝統となっています。だから、自分が上級生になったときは、下級生を優先し、いたわるという思いやりある行動をするのが当たり前だという意識が育ち、そうできるようになっているのです。それが、先日の心温まる光景として表れていたのです。

これからも、様々な活動でのご理解とご協力をお願いいたします。

